

会 議 の 概 要

1 会 議 名	令和6年度宝塚市社会教育委員の会議 第1回臨時会
2 開 催 日 時	令和7年3月13日（木） 15時30分～16時45分
3 開 催 場 所	宝塚市役所 3A 会議室
4 出 席 委 員 [■出席 □欠席]	■木下委員 □筒井委員 ■大西委員 ■温井委員 □石井（宏尚）委員 ■林委員 ■皐月委員 ■西本委員 ■金森委員 ■石井（隆司）委員 ■槇委員
5 傍 聴 者 数	1 人
6 公 開 の 可 否	■ 可 □ 不可 □一部不可
7 議題及び結果の概要	1 議題 （1）宝塚市の家庭教育について （2）ことばの教室運営委員会への補助金交付について 2 報告事項 （1）令和6年度阪神北地区社会教育委員協議会第3回理事会 （2）令和6年度阪神北地区社会教育委員協議会第2回研修会

令和6年度宝塚市社会教育委員の会議第1回臨時会 議事要旨

1 議題

(1) 宝塚市の家庭教育について

宝塚市における家庭教育についての提言（案）について説明。

(委員)

4ページに「放課後児童支援に関して、小学校第3学年までは、放課後児童クラブ（学童保育）が運営されている…」と記載あるが、これは育成会のことか。それであれば、6年生までであるのではないか。

(事務局)

本市では放課後児童クラブは小学校1年生から6年生までを受け入れているが、学校の状況に応じて3年生までの場合もある。

(委員)

4年生以降の放課後支援事業を検討する内容になっているため、修正をお願いする。

(委員)

3ページに「ひとり親家庭については本市では減少傾向であるものの、それぞれの家庭が社会から孤立している可能性があります。」と記載があるが、ひとり親家庭が市の課題であると捉えられるのでは。ひとり親家庭はあくまで現象であり、減少傾向であることは本文と関連がないため、削除してはどうか。

(委員)

3ページ社会全体でサポートする環境体制について、自治会やコミュニティでそれぞれ活動していると思うが、社会教育との連携については記載しなくて良いのか。

(委員)

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）という仕組みがあり、そこに社会教育に携わる人や、放課後遊ぼう会、自治会の方々が委員となっている。

(委員)

社会全体でサポートする環境体制に該当するのであれば追記してはどうか。

(事務局)

コミュニティ・スクールやたからづか学校応援団が当てはまる。記載内容を検討する。それぞれの担い手がお互いの活動状況を知らないという課題があるかもしれない。

(副議長)

それぞれの地域でも子育て支援を課題として活動を行っているが、横への繋がりがうまくいっていない。コミュニティ・スクールは、学校と地域が繋がるためのパイプだと思うので、うまく機能させることによって、子どもや子育て世代の支援が見えてくる。今後はここが課題となるのではと感じている。

(委員)

どういう支援が必要か、学校が情報発信を行っている。

(副議長)

マッチングがうまくしていれば良いが、地域と学校お互いの情報発信がうまくいっていない場合もある。

(委員)

コミュニティの横の繋がりはあるのか教えていただきたい。

(副議長)

会長同士はあるが、メンバー全員までに情報が行き届いていないことも多い。横の繋がりが広がれば、これまでの活動をもっと活性化できると感じているがそういった場がない。

(事務局)

それぞれで活動をしている現状を追記し、横の繋がりがいないことを課題として追記し、それに対するアプローチを最後に追記させていただく。

(委員)

これまで家庭教育について意見などをまとめたものがあるのか。また、今回の意見書が完成した後はどのように市民に伝えていく予定なのか。

(事務局)

第2次宝塚市教育基本振興計画前期の最終年度となる令和7年度に後期に向けた

見直しを行う中で、本会議でいただいた家庭教育についての内容を教育委員会で報告し反映させる。家庭教育を教育委員会から子ども未来部へ補助執行しているので、子ども未来部とも共有していく。

(委員)

子どもへの支援は記載があるが、保護者へのアプローチも項目の1つとして記載してはどうか。モンスターペアレントについての記載があったため、保護者への支援をすることによって余裕が生まれることもあるのではないかと。また、母親の就労状況についてデータが示されているが、説明いただきたい。

(議長)

子育て支援に関するアンケート調査報告書での母親の就労状況の質問項目で、「母親がいない」、「父親がいない」と回答した数値が前回調査時と比較して減少傾向であることを説明している。

(委員)

保護者も家庭教育の主体であるため、例えば課題を抱えている、孤立している保護者なども市はサポートしていくという意思が伝わる項目があれば、希望が持てるのではないかと考える。

(事務局)

親自身が抱えている問題などを課題として記載することもできるのではと感じた。相談窓口としてはあのね（子ども総合相談課）になる。

アンガーマネジメントやロールプレイを通じて親育ち講座なども実施している。

(副議長)

参加意欲がある保護者は良いが、行政と繋がらない保護者が課題だと考える。あのねへの相談件数は増えているが、自分のまわりでの認知度は低いと感じている。全校へリーフレットを配布していても読んでもらえていないのでは。周知活動が必要だと思う。

(委員)

学校からの手紙にもあのねを掲載している。

(副議長)

相談してみたい人は多いと思うので、リーフレットを配布して待っているだけで

なく、イベントなどアウトリーチもしてみてもどうか。

(委員)

保護者向けの講座などがあるのであれば2ページに追記してはどうか。

(事務局)

いただいた意見をもとに修正する。スケジュールとしては、4月下旬から5月に会議を開催し協議いただき、6月の教育委員会定例会にて報告する予定。

(2)「ことばの教室運営委員会」への補助金交付について

(事務局)

社会教育法により社会教育関係団体に対して補助金を交付する場合は、あらかじめ社会教育委員の会議の意見を聴くことと定められているため、今回議題としている。団体名や概要については資料のとおり。

(委員)

福祉からの助成ではなく、なぜ教育からなのか。

(事務局)

まず、社会教育には社会教育関係団体の活動を支援することや、障害（がい）者の生涯学習を推進していくことが含まれている。市主催の同様の教室があるが、今回については、ことばの教室運営委員会という社会教育関係団体の活動内容が大きく見れば家庭教育にも繋がることであり、障害（がい）者の学びの支援となるため、補助金を交付している。

2 報告事項

(1) 阪神北地区社会教育委員協議会第2回理事会について

日時 令和7年1月10日（金）15:00～16:30

場所 アステ川西5階ルーム500

内容 令和6年度阪神北地区社会教育委員協議会第2回研修会について
情報交換会

(2) 令和6年度阪神北地区社会教育委員協議会第2回研修会について

日時 令和7年2月19日（月）14:00～16:30

会場 キセラ川西プラザ 2階 大会議室

内容 研修テーマ

「地域と学校の連携・協働による地域教育の推進

～コミュニティ・スクールによるまなびづくり・ひとづくり・まちづくり～」

講演（講師） 浅野 良一氏（兵庫教育大学客員教授、環太平洋大学教授）

パネルディスカッション

（事務局）

それでは、以上をもって、本日の議事を終わらせていただく。